

IPUHS

vol.008
2021/02

茨城県立医療大学
IBARAKI PREFECTURAL UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES

通信

茨城県立医療大学
広報紙

Keep on going!

■新学長インタビュー

松村 明 学長

■新しい生活様式下での教育と学生生活

学生×教員×職員 座談会

■つなげよう！IPUHS支援基金プロジェクト

同窓会（藝游會）

■付属病院における感染症対策

付属病院 大瀬 寛高 教授

■NEWS&INFORMATION

■キャリア支援活動 ■ダイバーシティ推進活動

■Coffee Break（事務局）



松村 明 新学長 インタビュー

Matsumura Akira

2020年4月、第7代学長に松村明先生が就任されました。そこで、松村新学長ご自身について、就任から現在（2020年11月）までの大学運営、本学に対する印象、今後のビジョンなどについて、お話を伺いました。本誌では、その一部を紹介いたします。フルバージョンは、Webページに掲載しておりますので、ぜひそちらもご覧ください。



——お忙しいところありがとうございます。最初にご略歴など教えていただけますか。

筑波大学の一回生として昭和四十九年に茨城県に生まれました。固い履歴はいいですよ（笑）。最初に筑波大学に入学式で来た時、茨城県に足を踏み入れたことがなくて、どんな遠いところだろうと思って両親と私で、わざわざ急行の指定席まで取ってきて上野から乗ったらすぐに着いちゃって、こんなに近いんだって初めて知った次第です。

——もともとはどちらのご出身ですか？

親が商社だったのであちこち回っていたんですが、生まれは東京の中野区です。生まれてすぐイギリスに行って、小学校一年で帰国し、小学校時代は兵庫県で過ごし、中学でまたドイツに行って、高校の時に東京に戻ってきて、大学入学後はドイツ、イギリスの二回の留学時期を除いてずっと茨城県です。茨城県がもう四十六年ぐらいになり、一番長いですね。若いうちは、県内の病院をずっと回っていました。日立の方にも二年間行っていたし、それから高萩とか北茨城の病院にも診療とかお手伝いに行ったり、鹿行の方も、あと境町とか筑西とか、県内のいろいろなところに行きました。

——大学時代はどのようにお過ごしでしたか？

筑波大学で楽しい学生生活を過ごしました。学生時代は、運動は一応、硬式テニス部所属でしたが、ご存知のように筑波大学のテニス部はすごくレベルが高く私はピリッけつで、いつも球拾いとか買い出しとかそういうことばかりでした。そこではつまりマネジメント能力を高めたということですね（笑）。チーム医療で言うと、バックヤードで頑張っていた

ということですが。

医学部時代に、「心理学研究会」というのを立ち上げて、他学部の学生達とフロイトの全集やヤスパースの抄読会を行いました。学生の頃は精神科に行こうと思っていた。もう一つは、「熱帯医学研究会」に参加しました。フィリピンのレイテ島にWHOが立ち上げた「日本住血吸虫研究所」があって、そこにスタディツアーで行きました。その時に目から鱗が落ちるというか、世界を見るというか大きな体験をしました。元々は医療視察で行ったのですが、社会構造とかいわゆる貧困の問題とか、今、SDGsで問題になっているような、いろいろな社会・経済・政治問題が混じりあっていて。そこで社会医学の重要性や国際医療協力の重要性などを感じとったことがあります。

先生のご専門は脳神経外科ですね？

ずっと、精神に興味があって、当時の精神科というのは、良い薬がなくて治りにくい印象がありました。私も学生時代にいろんな精神病院見学に行きました。夏休みに小平の国立精神神経医療センターに行ったり、子供の精神科を見たくて国立小児病院に行ったり。県内では石崎病院などに行きましたが、当時の精神科はなかなかハードルが高くて、本道ではないかもしれません、精神に携われる外科医ということで脳神経外科を選びました。ただ精神外科はご存知のようにロボトミーなどで大きな社会的問題となつて、一時廃れてしまいました。ただ逆に現在は深部電極で大うつ病を治すとか、強迫性障害も電極で治すという機能的脳神経外科がまただいぶ復活してきて、そういう意味で脳の機能を再生したいという想いをずっと持ってきています。



レイテ島日本住血吸虫研究所にて
(前から2列目左から3番目が松村学長)

私の持つ脳神経外科のイメージと異なり、海外でのご経験や幅広いご関心にとっても刺激を受けました。最後に読者の方へメッセージをお願いします。

在校生の方、特に今年入学してきた人は、コロナ禍という非常に大変な中で、実習も含めて皆さん大変苦労していると思います。けれども、世の中ではいろいろなことが常に起きているので、そういうことに対して強いレジリエンス、つまり耐性と言いますか、どんな困難にも負けない強さを持つていただきたいということが、在校生に一番伝えたいことです。それを養うためにも、私自身もそうでしたけど一度外国に短期間でも長期間でも行ってみて、外から日本を見るということが自分の立ち位置を知る上で、非常に役に立ちました。海外の人が何を考えているか、海外が日本をどう評価しているかという視点を持てると、そこで自分自身の視野が一段落けて大きな視点が得られる気がします。



プロフィール
1954年東京生まれ。筑波大学医学専門学群卒業（第1期）。前筑波大学附属病院院長。専門は脳神経外科。

医療大の卒業生は今大体四千人近くになって、それだけ多くの卒業生が県内外で活躍しているということは非常に大きな財産だと思っています。同窓会組織もこれから本格化していくと思います。若い方は皆さんそれぞれの現場で忙しくて、同窓会という横のつながりは多くないかもしれません。社会や職場の中核になり責任ある立場になり、それから指導的立場になり、最後はOBになって若い人をサポートするというのが同窓会なので、これから同窓会組織や同窓生の絆をしっかりと形成して、つながりを強固なものにしていただきたい。それは、内輪で固まるということではなくて、それを核にして地域や、外の社会でも活躍して行っていただきたいということです。もちろん県内の人もいるし、県外や国外に行っている人もいますので、医療大を核にしたネットワークを是非作り上げてもらいたいと思います。

貴重なお話をありがとうございました。

(インタビュー…佐藤 純)

座談会

学生×教員 ×教務課職員

一列目右から
桜井 直美 教授 (医科学)
根本 真由 さん (看護2年)
大橋 ゆかり 教授 (理学)

二列目右から
山本 曜子 係長 (教務課)
西井野 乃佳 さん (作業1年)
佐々木 幹 さん (理学4年)
藤田 好彦 准教授 (作業)



Keep on learning!

2020.10.30 特別応接室において

R3 1.18~ 緊急事態宣言発令 (茨城県独自)	11.28~ 県内一部地域外出自粛要請	11.21 11.19 県内で66名の陽性者確認 (文科省)	8.9 感染対策徹底の通達 (文科省)	7.27 後期及び次年度体対面授業等の通達(文科省) 県内で17名の陽性者確認 (第二波最多)	6.5 感染対策ガイドライン通達 (文科省)	5.25 緊急事態宣言解除	5.20 学生支援緊急給付金の通達 (文科省)	4.16 緊急事態宣言発令	4.1 学生支援緊急給付金の通達 (文科省)	3.24 県内初の感染者報告 遠隔授業の活用等の通達 (文科省)	3.17 県内初の感染者報告	2.28 臨床実習中止に伴う代替措置等の通達(文科省・厚労省)	R2 1.16 国内初の感染者報告	国内・県内の動き
10.1 後期授業開始(遠隔授業混合、演習・実習・実験科目は基本対面授業)	9.5 同窓会による学生支援金の配布	7.29 学生支援緊急給付金の申請	7.1 一部の演習・実習・実験科目の対面授業再開	6.16 学生支援緊急給付金の申請	5.7 前期授業開始 (遠隔授業対応)	4.8 前期授業延期	4.6 動画配信も用いた履修ガイダンス	4.3 入学式中止	4.1 安否確認システムによる全学生の体調確認開始	3.18 卒業生のみ参加の卒業式	2月 国家試験	学生サークル・アルバイト自粛要請	大学の動き	

2020年、新型コロナウイルス感染症拡大により、人との交流が制限されました。授業、臨床実習、学生生活は、今までは全く異なる対応が求められました。本学がどの様に対応し、学生がどの様に過ごし学び続けたのか、教員、学生、大学職員で語り合っていました。(放射線技術科学科は授業のため参加することができませんでした。)

新入生の大学生活

桜井(司倉)…入学直後に授業開始が延期され、遠隔授業がスタートとなりました。何が困りましたか？

西井…ちょっとした確認や他愛もない話ができなくて、困りました。例えば「この授業は、何時から開始だったのかな?」とか。「授業難しかったね。」とか。

桜井…学科ではどの様にサポートされましたか？

藤田…大学メールとは別にSNSを利用して、学生が質問をしやすい環境を作りました。しかし、新入生の性格も分かりませんし、言葉以外から状況を汲み取れず困りました。

桜井…学生さんもあまり知らない人に連絡するのは緊張しますよね。

西井…先生や同級生から返事がないと、不安でした。気づかなかつたのかな?、気分を害したのかな?と

桜井…ところで、サークルには入りましたか？

西井…アカペラサークルに入りました。でも密になりますし、大きな声を出す活動なので、まだ一度も参加できていません。ですから、先輩と知り合いになれなくていろいろ教えてもらえず残念です。

桜井…先輩から見た1年生はどうですか？

根本…今年はZOOMでサークル紹介を行いました。沢山の1年生が集まってきて驚きました。その様子を見て、「今年の1年生は自分から積極的に行動しないと何も情報がかめないから大変だな。」と思いました。私は履修のことなど、先輩が教えてくれました。今年はそれができなかったんですね？



西井さん



藤田先生

空白の一ヶ月、 大学は何をしていたか？

桜井…急速な感染拡大に鑑みて、大学は前期の授業開始を1ヶ月遅らせました。学生の皆さんや保護者の方にはご心配をおかけしたと思います。

山本…授業開始が延期となり、売店も休業になったので、教科書の購入方法についての問い合わせを多くの学生さんからいただきました。申し訳なかったのですが、「インターネットで買ってください。」と御案内しました。でも、各企業も在宅勤務になったため注文は受け付けるが発送に時間がかかる、売り切れているという事態も発生しました。準備できなかった学生さんに教員の本を郵送した例もありました。また、5月末ころから小学校や中学校の授業が徐々に再開されると、「大学はいつまで遠隔授業なのか？」や「対面授業はいつから始まるのか？」という問い合わせが多くなりました。



桜井先生



山本さん

桜井…大学生は通学を含めて活動範囲が広く、アルバイトで生計を立てている者もいますので、小・中学校と同等には判断できませんでした。また、敷地内に付属病院があり、教員は臨床業務も行っているため対面授業は慎重にならざるを得ませんでした。

山本…でも、大学としての情報提供が遅いことに関しては、反省したところです。

桜井…そうですね、遅かったと思います。学生さんは、引越しをどうするかとか、いつ実家から阿見に戻るかの計画が立てられませんでしたよね。本学は演習や実習が多いので、3月の段階では感染対策をしっかりと行って対面授業を行う方向に舵を切っていました。今も行っていますが、全学生、全職員の体調を毎日確認する等ですね。遠隔授業に切り替えると決定したのは4月になってからです。ですから準備がバタバタでした。

山本…遠隔授業を実施することが決まっていたら、遠隔授業のツールやルールを本当に急ごしらえて学務委員会（※下部参照）の先生と決めました。授業開始を1ヶ月遅らせた間に学生のネットワーク環境等に関するアンケート調査を行ったり、授業資料をレターパックで郵送したりしました。

桜井…私は事務の方と一緒に遠隔授業開始に向けた作業をしたのですが、事務局は本当に大変だったと思います。山本さんは「今日から授業なのに、授業ができない！」といった悪夢を見られたそうですね。私は、夢に見ることはありませんでしたが…。プレッシャーはかかっていました。

フルバージョンはwebページにて掲載しております。



西井…私は、幸運にも先輩に相談できました。でも、何も情報を得られずに登録した人の方が多かったと思います。その人達は、履修登録変更期間中に急いで変更していたようです。

桜井…少ない情報でいろいろ決めるのは大変ですね。ところで、今年の1年生の印象はどうですか？
大橋…私は1年生の副担任で、前期に面談しました。Zoomしかやっていない時期だったにも関わらず、友達はできましたか？と聞くと、みんなができました！と言っています。画面上で知り合った人と仲良くなるって…。若いってすごいなと思って。
桜井…Zoom上で話すのは、抵抗ないですか？
根本…抵抗はないです。

桜井…若いなら、私は抵抗があるんですよ（笑）。
佐々木…僕も抵抗ありますよ（笑）。
西井…人によるかもしれません。画面上で、この辺（額）しか映さない人もいます（笑）。

藤田…私も抵抗あるので…。パソコンのカメラ設定をいじって、できるだけ良く映るように（笑）！
桜井…顔映りが良くなる様になっている（笑）！

遠隔授業について

桜井…遠隔授業（※下部参照）について伺います。

大橋…理学療法学科では、今までグループ学習やPBL（問題解決型学習法）を積極的に取り入れてきました。通常は、授業外に学生が情報を集めて、準備をして、それから授業内のグループワークを行っています。しかし、今年は図書館に来て調べ物することも難しかったので、やりようがないんですね。ですから、今年については講義半分、演習半分かみたいな形で行いました。

藤田…Zoomを用いた授業は、パソコンのカメラに向かって説明します。骨標本を使って、「骨のここに筋肉が付着して〜」といったながら、画面に映っているところは違う場所だったり…。当たり前の様に伝えられたことがうまくできず大変でした。

桜井…今までの大学授業と比べて遠隔授業はどうでしたか？良かったところもありましたか？

根本…看護の基礎技術は、事前に配信動画を見てから、登校して短時間で演習を行いました。先生から、「例年よりも手技がすごく順調で上手い！」という言葉頂きました。私自身も、動画だと何回も見て確認できたので良かったです。例年だと先生のデモによる説明を1回だけ聞いて、その後に演習に移行しますが、今年はいろんな技術の動画を見て、理解とイメージを深めることができたと感じました。



大橋先生



佐々木さん

桜井…大変だったこともあったのではないですか？

根本…Zoomは通信環境の影響を受けやすく、今日の授業でも何人かアクセスできない人がいました。やはり、授業が中断するのはデメリットですね。

桜井…テレワークや遠隔授業が増えて、ネット回線が混雑して大変だとニュースにもなりましたね。

西井…Zoomの授業で、目に見えて疲れておられる先生や、私達の反応がわからないことにすごくストレスを感じているのが分かる先生もいらっしゃいました。今さっき、資料ができました！という先生もいらして大変なんだと思いました。

桜井…スマートフォンで受講している方もいるようでしたので、自分の資料で確認したら、見えない！と思って（笑）。色々と工夫しましたが、学生さんが分かる位、教員も追い詰められていたんですね。

臨床実習について

桜井…本来であれば、4年生は長期実習でしたね。

大橋…理学療法学科は4月から1人14週間の実習の予定でした。3月末に実習前ガイダンスを行ったのですが、4月に急遽、実習中止の判断をしました。その後、実習地の状況や意向を確認した上で、7月と8月に1人3週間の実習を行いました。

桜井…何が大変でしたか？

佐々木…感染拡大の現実をニュースで見て、急に実習ができなくなることは覚悟していました。でも、実際に中止が決まると、気持ちの切り替えが難しかったです。

桜井…実習前はどの様に過ごされていたのですか？

佐々木…なるべく密になる場所に行かないように心がけました。正直ストレスはありましたが、何よりも僕たち実習生が感染源にならないように、何とか生活していました。

桜井…夏に3週間の実習が実現したわけですが、実習での学びはどうでしたか？

佐々木…例年よりは経験できることは限られましたが、3週間でも臨床現場で実際に患者さんに触れて状態の変化を追えたのは貴重な体験でした。

桜井…4月から働くことに。自信はありますか？

佐々木…不安な気持ちが強いです。就職説明会で、「来年は新人教育の期間を長めに取ります。」という下さる病院もあったので、ほっとしました。

大橋…病院実習が十分にできないまま就職するという問題は、全国的な問題です。来年は各病院に新人研修期間を長めにお願いすることになります。



根本さん

卒前教育と卒業後の連携は以前からの課題になっています。今回を契機に大学と現場が協力する体制が進めば良いと思います。

桜井…看護も前期に臨床実習に行きましたよね。

根本…今回が初めての臨床実習でした。本来は8日間の実習が3日間になりました。フェイスシールドを着用して患者さんとお話することやバイタルチェックを行うことはとても大変でした。

桜井…この後も病院実習に出るのですか？

根本…残りの実習は、Zoomで現場の方のお話をうかがうことになっています。

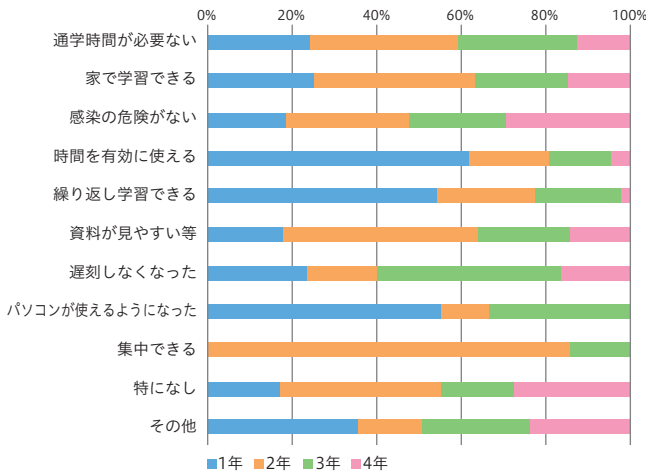
桜井…4年生は仕上げの実習ができなくて大変でしたが、下の学年は土台の実習ができないことになるから、それはそれで本当に不安ですね。

根本…今回の実習での体験が薄過ぎて、次もほぼ初めてみたいな感じなのかなって、すごく不安です。

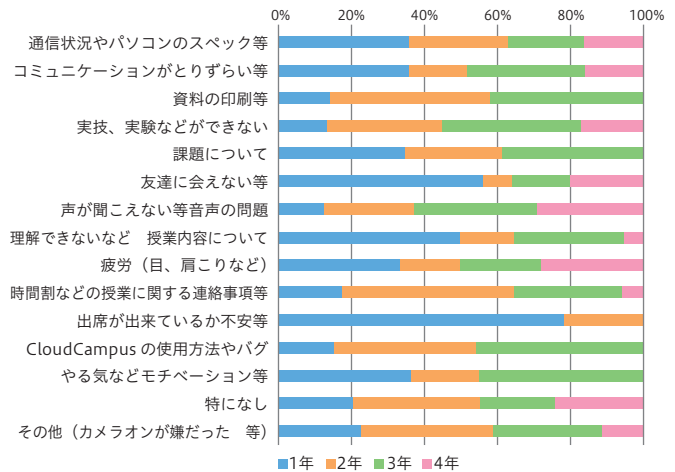
桜井…各学科の先生もその不安の解消に努めてくださっていると思います。まだ先がわからない状況ですが、これからも色々な方法を使って学び続けましょう。皆さん、本日はありがとうございました。

令和2年度 学年別前期授業後のアンケート結果

遠隔授業にしてよかったこと



遠隔授業で困ったこと



(調査対象：保健医療学部704名) (調査期間：令和2年8月5日～8月19日)

令和2年度 授業実施方法とその割合

授業実施方法	左の詳細	前期		後期	
		科目数	割合	科目数	割合
遠隔	同時双方向のみ	57	40%	38	27%
	オンデマンドのみ	27	19%	19	13%
	同時双方向・オンデマンド混合	22	15%	6	4%
対面	対面のみ	11	8%	72	51%
	オンデマンド対面	8	6%	0	0%
遠隔・対面混合	同時双方向・対面	13	9%	6	4%
	同時双方向・オンデマンド・対面	5	3%	0	0%
合計		143	100%	141	100%

調査期間：令和2年11月末

藝游會

Alumni Association



つなげよう！IPUHS支援基金プロジェクト

日頃より、同窓会「藝游會」の活動の推進にご理解・ご協力・ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大によって、同窓生の皆様におかれましては大変なご苦労をされておられることと案じております。

本学の在學生も大きな経済的影響を受け、学業継続に対する緊急支援が必要な状況になりました。そこで、藝游會として大学と連携し緊急支援を含めた寄付事業「つなげよう！IPUHS支援基金プロジェクト」を立ち上げ、総額612万2103円、78件の個人・団体様よりご寄付を賜りました。

支援事業第一弾として、国による「学生支援緊急給付金」などの対象外となった学生を対象に1人あたり2万円を270名の学生に支給しました。支援を受けた学生からは、以下のようなコメントが届いております。

「奨学金を受けていない学生は、アルバイトの収入に関わらず一切支援を受けることができず、非常に困窮しておりましたので、今回助かりました。国家試験の学習のための教材をこれで購入させていただきます。コロナの影響によるバイトの収入

の減少や遠隔授業のための環境整備のために多くのお金が必要となり、とても困っていたところこのようなお知らせがあり、応募させていただきました。これから、どのようになっていくか不安が多くある中でもこのような温かい支援をいただけることに感謝しつつ、この感謝の気持ちを忘れることなく、医療人となってから精一杯恩返ししていきたいと思えます。（一部抜粋）（在學生からのコメント）

つきましては、大学HPまたは藝游會アプリよりご覧いただけます。在學生からは、本プロジェクトが立ち上がったことに対して、支援を受けているという喜び、大学と在學生・同窓生のつながりの大切さなどの声が届いております。この場をお借りして、皆様からの温かいご支援に感謝申し上げます。本プロジェクトの「つなげよう」という言葉には、学生の学業継続につながることに、卒業生と在學生のつながりをさらに深め、それらを通して今後の茨城県立医療大学の一層の発展につなげたいという願いを込めています。寄付受付は引き続き行い、今後の在學生支援に向けて準備を進めていきたいと思いますので、引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今年度の在學生・卒業生支援事業の活動報告

今年度も昨年度に引き続き、在學生支援事業として国家試験対策関連図書を寄贈し、在學生から喜びの声が届いております。また卒業生支援事業としても引き続き「藝游會アプリ」の運用を行っております。同窓生の皆様にとりまして、大学がより身近に感じられ、かつ同窓生同士の交流の場として活用していただけるようなアプリになるよう、引き続き努力してまいります。アプリ掲載内容や運用等にご要望やお気づきの点がございましたらお気軽にご連絡ください。

毎年、各期の幹事の皆様にお願いして原稿をお寄せいただいている同窓会報藝游は、PDF化され、大学ホームページにアップされています。御写真が多数掲載されており、PDFを開くためにパスワードを設定しております。別紙でお届けしているパスワードにてご確認ください。

第6回卒業生交流セミナーの開催について

2020年度の卒業生交流セミナーの担当学科は理学療法学科です。大橋ゆかり先生（理学療法学科教授）が今年度末で定年退官を迎えられることから、開学当初から着任され、同窓会の顧問も務め

ていただきました大橋先生への感謝の気持ちをこめて、大橋先生の最終講義を今年度の藝游會卒業生交流セミナーと共催とさせていただきます。

セミナーの詳細は？

今年度の定期総会の開催報告

今年度は、新型コロナウイルス感染症状況を踏まえ、6月に予定しておりました定期総会は11月25日19時～20時にて開催いたしました。内容につきましては、同窓会報をご確認ください。今後も新型コロナウイルスの感染の状況を判断しながら、活動方法を検討してまいりますので、今後とも同窓会へのご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

同窓会「藝游會」へのお問い合わせ、ご意見などございましたら、お気軽にお寄せ下さい。

連絡先

会長 橋 香織

(PT一期生) 茨城県立医療大学
理学療法学科准教授)

✉ tachibana@ipu.ac.jp

新型コロナウイルス感染症

— 付属病院の対応について —

茨城県立医療大学付属病院 感染対策委員会副委員長
インフェクシオンコントロールドクター

大瀬 寛高

① 来院者全員の体温・体調チェック

(写真1)

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行という、人類が経験したことのない出来事は医療体制のみならず、われわれの生活様式や社会構造までも変えてしまいそうです。わが国では2020年4月7日に緊急事態宣言が出され、国をあげての対応を迫られました。その後、終息傾向がみられ、5月25日には緊急事態宣言が解除されました。

② 職員全員の体温・体調チェック

体調管理を徹底し、発熱時や体調不良時はマニュアルに従い、万全の対応をとるよう心掛けています。

③ 面会制限 (写真2)

面会中止としている医療機関が増えています。当院では入院期間が長い傾向にあり、患者さんの精神的な支えにもなりますので、原則面会者1名、10分以内と厳しい条件をつけながらも面会を継続しています。

④ 電話外来再診導入

病状が安定している患者さんでは、電話再診により受診なしで処方箋発行を行っています。患者さんの不安を軽減し、外来が密になることを避ける狙いもあります。

全国的に新型コロナウイルス感染症が発生しています。入院患者さんを感染から守るために3月7日から原則面会は家族のみになります。

- 家族の都合には、受け付け可能な限り、必ず医師に相談してください。
- お病気の進行が心配な場合は、必ず医師に相談してください。
- お病気の進行が心配な場合は、必ず医師に相談してください。
- お病気の進行が心配な場合は、必ず医師に相談してください。

ご理解とご協力をお願いいたします。

2



1

⑤ 外来リハビリテーション、デイケアの制限

外来リハビリテーション、デイケアは、一時中止していましたが、人数の制限などを設けて再開しました。リハビリの回数や頻度が落ちますが、患者さんにご理解・ご協力をいただきますから継続しています。

⑥ PCR検査・抗原検査の導入

PCR検査は、新型コロナウイルス感染症疑いの例、クラスター発生防止の観点から、手術を行う患者さんは全例で行っています。また、当院から転院の際、先方の受入れ条件にPCR検査陰性をあげる施設もあつて、検査数は漸増しています。結果は最短期間日には判明します。一方、PCR検査より感度が落ちますが、15分程度で結果が判る抗原検査も導入予定です。インフルエンザとの同時流行が懸念される今の時期に威力を発揮してくれるものと期待しています。

⑦ 入院患者さんへの対応

ほとんどの患者さんが紹介入院ですので、紹介元と連携を密にし、新型コロナウイルス感染症の可能性がある方の入院を回避しています。患者さんにはマ



3

⑧ 学生実習について

今年度は入学式も中止となり、特に1年生の皆さんは不安なまま新学期を迎えられたことと思います。付属病院では実習受け入れを全面中止していた時期がありましたが、現在は実習の人数や、患者さんとの接触機会などに制限を設けながらも受け入れを行っています。例年より窮屈な感には拭えませんが、許された条件の中で最大の効果が得られるよう頑張りたいと思います。また、発熱・体調不良時にはせつかくの実習ができなくなり、実習中はもちろん、日々の生活の中でも感染対策の徹底をお願いしています。



4

「病院の研修士として、何を行い何を学んでいるか」

研修士 作業療法士 平岡 美紗子

当院では整形疾患、小児疾患など、様々な疾患及び年齢層の患者さんのリハビリテーションに携わることができ、現在、私は主に高次脳機能障害をお持ちの方を担当しています。また、学生実習では経験できなかった、ドライビングシミュレーターを活用した自動車運転評価および介入法に関して先輩方のサポートの下で実践的な学びを得ています。

本制度は、充実した環境下で幅広い分野のリハビリテーションを学びたい療法士にとって、自分の将来像をイメージしながら働く機会を提供してくれる良い制度だと考えます。

✦ 研修士制度とは…

付属病院で働きながら、多分野に渡るリハビリテーションの知識と高度な臨床技術を習得できる制度です。勤務時間が正職員より短いため、空いた時間を研究や大学院への通学に充てることもできます。

■大学ニュース

大学ホームページがリニューアルされました！

茨城県立医療大学ホームページは、2020年12月に、デザインや掲載内容等を一新し、リニューアルいたしました。スマートフォンやタブレットでも見やすくなりました。ぜひチェックしてみてください。

今後、掲載内容等は順次更新を行ってまいります。
新ホームページアドレス <https://www.ipu.ac.jp/>



事務局総務課情報担当

■令和2年度に新しく着任・昇任した教員

山海千保子 4月1日着任（准教授 看護学科）
市川 睦 4月1日着任（助教 看護学科）
中川 将吾 6月1日着任（講師 附属病院）
小林 智哉 9月1日着任（助教 放射線技術科学科）

藤田 好彦 4月1日昇任（准教授 作業療法学科）
黒田真由美 5月1日着任（助教 理学療法学科）
若山 修一 7月1日昇任（講師 作業療法学科）
木口 尚人 10月1日着任（助教 作業療法学科）

■令和2年度の定年退職教員 ～長い間、本当にありがとうございました～



大橋ゆかり
教授 理学療法学科

IPUHSでの26年間に、1,000人を超える学生・教職員の皆様との出会いがありました。最初は学部生として出会った人が、大学院生となり、さらに同僚となって活躍している姿を見ることは何よりの喜びです。良い時も悪い時もありましたが、やりがいのある仕事に従事できたことに感謝しています。今はコロナ禍にあり、活動が制限される場面もあるでしょうが、皆様がこの苦境を乗り越え、益々ご発展されることを祈念しています。



西出 弘美
助教 助産学専攻科

茨城県立医療大学では、看護学科に3年、助産学専攻科開設より7年間勤務させて頂きました。看護学科から専攻科に異動してからは、助産師教育にどっぷりとつかり、あっという間の7年間でした。色々なことがありましたが、後輩育成のために少しでも力添えができたのであれば幸いです。ラスト1年は思いがけない年になりましたが、これまで沢山の先生方にお世話になりました事を、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

阿見町及び茨城県生協連合会から食料品をご提供いただきました

令和2年5月、地元阿見町や茨城県生協連合会から、新型コロナウイルス感染拡大の影響でアルバイトの収入や仕送り額が減り、生活に困窮している独り暮らしの本学学生のため、食料品をご提供いただきました。

ご提供いただいた食料品は、茨城版コロナNEXTがStage2に緩和された6月1日から学生に配布しました。たくさんの食料品をご支援いただき、学生からは喜びの声が聞こえました。心よりお礼申し上げます。



【阿見町様から】

・アイリスオーヤマ パックご飯(新潟県産新之助) 9パック/人



【茨城県生協連合会様から】

・茨城県産米2kg、カップ麺、レトルトカレー、缶詰、インスタント味噌汁(本学からの申請者136名に対し、5月末、6月末、7月末の三回提供)

* キャリア支援活動 *

新型コロナウイルス感染拡大は、本学学生の就職活動にも大きな影響を及ぼしました。感染拡大の始まりは就職活動のスタート時期と重なり、病院見学会や就職説明会の中止、オンライン化など、学生はこれまで前例のない就職活動を強いられました。

キャリア支援センターでは、現在に至るまで3密を避けることを念頭に、対面時におけるアクリル板の設置、室内換気の徹底、手指消毒液の設置など感染防止に注意を払いながら、対応しております。

4月当初の4年生就職ガイダンスでは、感染予防を徹底したうえで、対面での実施に踏み切りました。その後の緊急事態宣言発令中(4/18~5/14)の就職支援においては、非対面での対応を心がけてきました。就職相談や情報提供などは、キャリア支援センターの開室はしつつも、オンラインやメールをメインに支援方法の選択肢を増やしてきました。今年度は、学生は例年通りに実習ができず、現場での施設情報が得にくかったこともあり就職先判断に苦慮し、就職活動に対する不安も大きかったため、よりきめ細やかな支援をしてきました。

また、緊急事態宣言解除後も「茨城版コロナNext」対策のStage等に鑑み、3年生、4年生の夏の就職ガイダンスはオンラインにて実施しました。6月に予定されていた理学療法学科、放射線技術科学科の就職説明会は、医療機関等からいただいた採用計画や施設情報をWEBでの提供に切り替えました。9月の作業療法学科Job-Meetingは、オンラインにて医療機関等の方にもご参加いただき開催しました。交流会における質疑応答では、入職後の研修など親身なお話を伺うことができました。

今後も新型コロナウイルスの感染状況に引き続き注意を払い、キャリア支援センターでは、学生に寄り添うことを使命として、学生たちのキャリア支援に取り組んでまいります。



お問い合わせ先

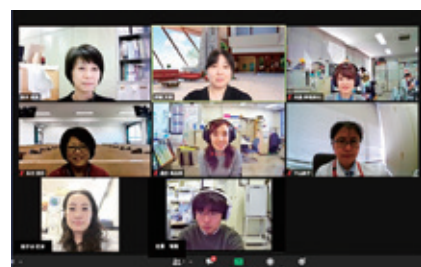
茨城県立医療大学
キャリア支援センター
Tel: 029-840-2109
mail: career@ipu.ac.jp
業務時間 8:30~17:15
(土日、祝祭日を除く)

茨城県立医療大学ダイバーシティ推進室

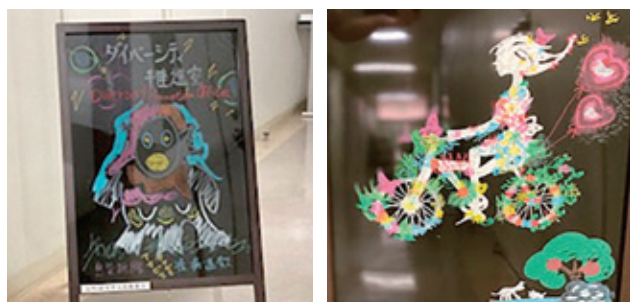
本学のダイバーシティ推進室の目的や活動についてご紹介します。

ダイバーシティ推進室の前身は、2018年に設立された女性研究者支援推進室です。その後、社会情勢の変化に対応し、基本理念等を定めました。その中では、ダイバーシティを「大学に所属する教職員及び学生が、性別、性的指向・性自認、国籍、年齢、障害等の有無に関わらず、お互いの多様性を理解・尊重し、個々の能力を最大限に発揮しながら、共に成長すること」と定義し、その実現を目指し、様々な活動を行っています。

1例ですが、ダイバーシティセミナーを企画し、2018年度は「介護する息子たち」の著者である平山 亮氏による介護に関する男女間の考え方に関する講演を、2019年度はEY Japanの梅田 恵氏による迫力ある講演を頂きました。他にも、幹部教職員との意見交換会や近隣企業との意見交換など幅広く活動しています。



ダイバーシティ推進室のメンバーです



現在はSOGI (Sexual Orientation (性的指向) と Gender Identity (性自認)) に関する内容についてのガイドライン作成等を関係部署と協力して積極的に取り組んでいます。これからもダイバーシティ推進室は本学の輝く未来のために活動して参ります。

ところで、左の2枚の写真はダイバーシティ推進室の看板です。さて、どこにあるのでしょうか?ぜひ探してみてください。

☕ Coffee Break ~キッチンカーへの思い~

外出自粛の風潮もあり、巷では自宅での食事やキッチンカーがブームだそうです。ご多分に漏れず本学にも、無限列車ならぬキッチンカーがやってきました。不安なエブリデイの中、気分はホリデイ・バースデイです。

一日一台(人気のため、11月からは隔週で二台となりました。2倍! 2倍!)ですが、そのかわり、入れ替わり、立ち替わり、唐揚げ、ケバブ、カレー等々いろんなお店がやってきます。私も一日一膳食べています。

そんなわけで毎日、同じ場所に並ぶだけで食の世界一周が出来そうです。80日間移動する大変さに比べればなんともありませんね。

キッチンカーの魅力は出来たてが食べられることです。寒い時期に、アツアツ作りたての料理が学内で食べられるのは嬉しいですね。また、その場で料理が作られていくのを見られるのもキッチンカーの醍醐味です。

引き続き、おなかも心も膨れるキッチンカーの料理を、美味しくいただきたいと思います。

事務局総務課 係長 増田 広道

IPUHS Kitchen Car Village



茨城県立医療大学 IPUHS通信 vol.008

発行月: 令和3年2月

発行: 茨城県立医療大学

問合せ先: 茨城県立医療大学

〒300-0394

茨城県阿見町阿見4669番地の2

Tel. 029-888-4000

Fax. 029-840-2301

本誌は年1回発行しております。

本誌に対するご意見ご要望を是非お聞かせください。

✉ shomu@ipu.ac.jp



茨城県立医療大学公式Webサイト

<https://www.ipu.ac.jp>

茨城県立医療大学 広報 Twitter

[@ipuhs_publicity](https://twitter.com/ipuhs_publicity)



茨城県立医療大学 広報 Facebookページ

[@ipuhs_publicity](https://www.facebook.com/ipuhs_publicity)

卒業生の方へ

卒業生との交流会等の企画・開催、大学情報を発信するため、勤務先や住所に変更があった時は、必ず電話又は書面もしくは本学ホームページ(卒業生の方へ)に掲載している下記の「卒業生連絡先等調査」入力フォームにてお知らせ下さい。

(看護学科) <https://www.ipu.ac.jp/for-alumni/contact-for-nurse/>



(上記以外の学科) <https://www.ipu.ac.jp/for-alumni/contact-for-other/>